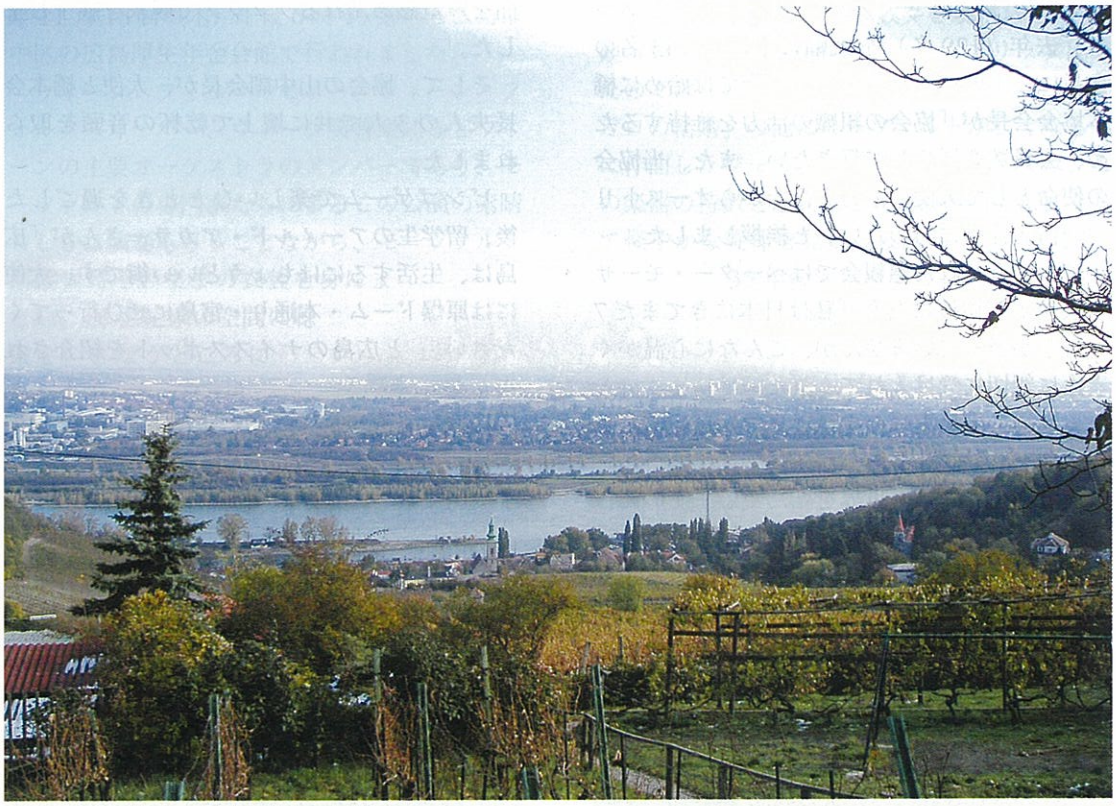
広島オーストリア協会

会報 No.28

平成17年4月30日発行
編集・発行／広島オーストリア協会
〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ 秘書室
TEL(082)221−4964
FAX(082)221−4731



▲ウィーン市内を流れるドナウ川

広島オーストリア協会 会長
在広島オーストリア名誉領事
橋本宗利

会員の皆様には日頃広島オーストリア協会の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年度を振り返りますと、当協会では6月にペーター・モーザー新駐日オーストリア大使ご臨席のもとに総会を開催し143名の多くの方にご出席いただきました。8月にはビアホールの会を、そして11月にはクラシックコンサートを開催いたしました。

8月のビアホールの会はあいにくの台風の中での開催となりましたが、多数の会員にご出席いただきオーストリアの家庭料理と音楽をお楽しみ頂きました。また、コンサートでは18世紀の宮廷楽士の衣装でバロック時代へタイムスリップしたかのような優雅な演奏に1500人あまりの方が魅了されました。当協会恒例の12月のクリスマス例会では、弦楽器によるクリスマスメドレーやゲームなど楽しいひとときを過ごしました。

また、3月にはモーザー大使を講師として再度お迎えし、「現在のオーストリア」と題した講演会を開催、オーストリアの歴史と日本との関係について詳しくお話いただき、多くの会員が知的好奇心を刺激されました。

協会ではオーストリアと音楽や文化面のほか経済や通商など通してこれまで以上に交流を深めていくため、今年度はオーストリアへの親善旅行を実施すべく計画を進めており会員の皆様のご参加を願っているところであります。

広島オーストリア協会では、今年も皆様のご期待に添えるよう活動の充実に努めて参ります。会員の皆様の積極的な行事へのご参加をお願い申し上げます。

総会報告

総会

平成16年度の総会が広島全日空ホテルで行われました。今回はペーター・モーザー駐日オーストリア大使ご夫妻がご出席されるとあって、去年（129名）を大幅に上回る143名の会員にご出席いただきました。会では始めに橋本協会会長が「協会の組織の活力を維持するため、会員数を増やして行きたい。また、当協会の使命として大使の協力を得ながらオーストリアの情報提供に努めたい」と挨拶しました。

続いて行われた懇親会ではペーター・モーザー大使がご挨拶にたち「私は日本にきてまだ7ヶ月しか経っていませんが、こんなに心温かく素直に親切に受け入れてくれた国は初めてでした。広島の街は東京の次に世界中に良く知られた街で、広島の精神は日本と全世界を結んでいます。オーストリアの人が日本に来ることがあれば広島を訪れるようにお勧めしたい。これからの活動がますます活発になりますように」と感想を述べられました。

懇親会では、日本演奏家協会の安東由華さん（ピアノは永井裕子さん）が「歌の翼」など3曲を声量感あふれるソプラノで観衆を魅了しました。

そして、協会の山中副会長が、大使と橋本会長夫人の3人で共に壇上で乾杯の音頭を取られました。

ビンゴゲームで楽しいひとときを過ごした後、留学生のアーノルド・アカラーさんが「広島は、生活するにはちょうどいい街です。大使には原爆ドーム・本通り・宮島にぜひ行ってください。」と広島のナイススポットを紹介されました。

最後に、光井副会長が「広島には国際空港があり、オーストリアの人はぜひチャーター便で広島においでください」と大使にアピールされ、なごやかな雰囲気の中、会は終了しました。

平成16年度事業報告

平成16年度理事会・総会・懇親会
6月2日(水)　広島全日空ホテル　（参加者:143名）

第11回ビア・ホールの会
8月30日(月)　広島アンデルセン　（参加者:49名）

ウィーン・モーツァルト オーケストラ
11月18日(木)　広島厚生年金会館　（参加者:1,530名）

クリスマス例会
12月2日(木)　リーガロイヤルホテル広島　（参加者:170名）

講演会・懇親会
3月3日(木)　広島ホームテレビ　（参加者:100名）

平成17年度活動予定

6月9日(木)	**理事会・第17回通常総会・懇親会**
8月	**ビアホールの会**
9月10日(土)～17日(土)	**オーストリア親善旅行**
10月25日(火)	**ウィーン・フィルハーモニア　ピアノ五重奏団**
12月	**クリスマス例会**
2月～3月	**講演会**
年1回	**会報発行**

役員の改選及び選任について（平成16年6月2日現在）

役員	現任者		候補者	現職
会　長	橋本宗利		橋本宗利	㈱広島ホームテレビ社長
副会長	江川恵司		江川恵司	マツダ㈱執行役員 業務管理本部長
〃	光井安子		光井安子	エリザベト音楽大学非常勤講師
〃	山中　光		山中　光	㈱マルニ会長
専務理事	松原一彦		松原一彦	㈱広島ホームテレビ総務局次長
理　事	金井宏一郎		金井宏一郎	㈱中国放送社長
〃	熊平雅人		熊平雅人	㈱熊平製作所社長
〃	クリスティアン・ハーセンビヒラー		クリスティアン・ハーセンビヒラー	駐日オーストリア大使館文化担当参事官
〃	斎藤忠臣		斎藤忠臣	財広島平和文化センター理事長
〃	島田戴平		島田戴平	財ひろしま国際センター専務理事
〃	世良幹夫		世良幹夫	NHK広島放送局副局長
〃	近岡　宏	新任	金村武敏	㈱テレビ新広島常務
〃	難波照雄		難波照雄	広島エフエム放送㈱常務
〃	福嶋正純		福嶋正純	広島大学名誉教授
〃	藤川魏也	新任	後藤文生	広島テレビ放送㈱社長
〃	古川吉彦		古川吉彦	㈱広島ホームテレビ副社長
〃	松本卓臣		松本卓臣	福山商工会議所会頭
〃	望月成二		望月成二	ヱビス電工㈱社長
〃	森本弘道		森本弘道	㈱もみじ銀行頭取
〃	山本一隆		山本一隆	㈱中国新聞社副社長
監　事	志水省夫		志水省夫	㈱新日放社長
〃	山下　隆	新任	寺田達明	中国電力㈱常務

活動報告

ウィーン・モーツァルト・オーケストラ公演

広島オーストリア協会主催「ウィーン・モーツァルト・オーケストラ広島公演」が、2004年11月18日（木）午後6時45分から広島市中区の広島厚生年金会館で行われました。

ウィーン・フィルハーモニー、ウィーン・フォルクスオーパー、ウィーン交響楽団などウィーンの主要オーケストラのメンバーであり、モーツァルトの専門家たちによるこの公演の素晴らしさは演奏もさることながら、モーツァルト活躍当時そのままの衣装を身にまとい、18世紀末の空間に聴衆をいざなうところにあります。モーツァルトの最高傑作のひとつ、結婚式までのドタバタを描いた「フィガロの結婚」も、金髪の巻き毛の鬘にレースの胸ひだ、膝までの半ズボンに白ストッキング、仕上げは鮮やかな刺繍を施したコートドレスを羽織って、という出で立ちが一層雰囲気を盛り上げました。ただ、このコンサートの特徴は単に衣装や舞台の飾り付けばかりではありません。厳選されたプログラムによって本格的なバロック・コンサートの雰囲気がお楽しみ頂ける点にあります。コンサートが「ミュージック・アカデミー」と呼ばれた当時にはシンフォニーの個々の楽章を演奏し、その間にオペラのマリアやデュエットなどを織り込むのが一般的でした。ウィーン・モーツァルト・オーケストラでは「ベスト・オブ・モーツァルト」の名曲の数々を現代に蘇らせ、観客の皆さんは18世紀にタイムスリップ出来たのではないでしょうか？　先述の歌劇「フィガロの結婚」の他にモーツァルトが亡くなる年に作曲した唯一のクラリネット協奏曲では、この楽器の特徴を確実にとらえ澄み切った、そして軽やかな旋律を見事に披露してくれました。35年の人生を駆け抜けた偉大なる作曲家の類いまれなメロディセンスに心打たれ癒された一時でした。アンコールを繰り返す観客の華やいだ表情が2時間の充実ぶりを物語っていたと思います。

さて、当日の楽屋裏は、といいますと大柄な団員たちの食欲の旺盛さに最後まで驚かされました。楽器を演奏するのも大変な体力を使うんだなぁ、と感心したり圧倒されたり……。今回の公演は東京からスタートし、大阪、京都と5公演を経て広島入りしました。無事日本公演を終えた一行、帰り際には自分たちの写ったチラシやポスターを大切そうに持ち帰る姿が印象的でした。観客も彼等もひとときの18世紀の宮廷気分を味わった贅沢な時間でした。

ビアホールの会

暑い日が続く中、オーストリアの家庭料理を味わいつつビールを酌み交わそうというオーストリア協会恒例の「ビアホールの会」。今年は大型で強い台風16号が広島を直撃しタクシー以外の交通機関がストップしたため、当初出席を予定されていた方からの欠席が相次ぎました。

会では始めに、橋本協会会長が「悪天候の中、おいでくださりありがとうございました。時間の許す限りビールと会話を楽しんでください。」と挨拶したあと、熊平雅人協会理事の乾杯で和やかにはじまりました。

会場ではマヨネーズで和えた野菜をハムで包んだ「シンケンロッレ」やおろしたジャガイモを揚げた「カルットフェル プッファ」など色とりどりのオーストリア家庭料理が並ぶ中、音楽療法士のキム・スガンさんがエーデルワイスやビアダルポルカなど数々の名曲をアコーディオンで奏で1時間あまりがあっという間に流れました。

中には東広島からおいでくださった会員の方もあり、強風と大雨が吹き荒れる外とは別世界のとてもアットホームなパーティーでした。

「現在のオーストリア」 駐日オーストリア大使 ペーター・モーザー

今回の講演会は、3月3日（木）18時からペーター・モーザー駐日オーストリア大使が講師を務められました。大使は昨年6月の総会に続いて2回目の来広です。講演会には100名の出席者があり、大使はオーストリアと日本のかかわりを大変わかりやすく話され、出席者の知的好奇心を刺激するすばらしい講演となりました。以下は講演会の要約です。

広島にまたお招きいただき、皆様方と再びお目にかかることができ、うれしく思います。

2005年は、オーストリアにとって、解放60周年、独立と中立そして国連加盟50周年、EU加盟10周年という記念すべき年です。今年は、これらの出来事を振り返り、未来を展望するよい機会だと思います。

オーストリアの歴史は、繰り返し侵略を図るチュートン人やゲルマン民族に対して、ローマ帝国がアルプスを越えイタリアの北方へ領土を拡大したのが始まりです。オーストリアは国境の砦になったのです。常に敵を警戒し、攻撃にさらされる最前線でした。

13世紀の終わりに、ハプスブルク王朝の時代となりました。ハプスブルク家は、主に王家どうしの婚姻政策によって、隣接する東方、北方の領土を獲得することができました。

こうしてハプスブルク家は、ドイツの皇帝であり続けただけでなく、ハンガリーやボヘミアなどの王にもなりました。

このような昔のことをなぜお話するかと申しますと、オーストリアの二つの主要なアイデンティティーが、歴史を通じて見えてくるからです。

一つ目は、危険な最前線の国に住んでいると、安全を願う気持ちも強くなります。オーストリア国民は友好的な近隣諸国に囲まれることによって、安全を確保したいと願ってきたのです。二つ目は、ハプスブルク家が領土を次々に獲得していったとき、オーストリアは近隣のハンガリーやスラブの人々と交じり合い、お互いに影響を受け合ったという事です。

19世紀のフランス革命後、民主主義が国のイデオロギーとなりました。国民はますます権利を要求し反乱を起こし始めたので、ハプスブルク家はやむなく国民の要求を認めました。しかし、民主的な権利に対する不満が高じたことと、オーストリア人とハンガリー人を平等に扱うことができなかったことで、帝国は第一次世界大戦後に崩壊しました。

オーストリアは、近隣のドイツとソ連という両大国のチェスのコマになりました。オーストリアは1938年にドイツに占領され、同年、チェコスロバキアもドイツに占領されました。そして東欧はドイツとソ連によって分断されました。

県知事表敬訪問

商工会議所訪問

第二次世界大戦後の冷戦時代には、ヨーロッパの分断は、鉄のカーテンによって動かぬものとなりました。オーストリアは再び前線の国となり、北東と南東を共産国に挟まれました。1955年のオーストリアの独立は、ハンガリー革命が起きるきっかけとなりました。また1968年には「プラハの春」が、そして1970年代にはポーランドで暴動が起きました。オーストリアは希望となり、近隣諸国を触発したのです。

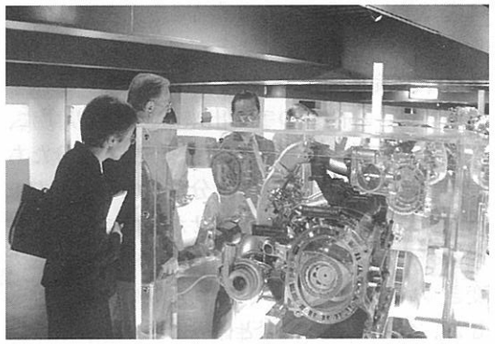
鉄のカーテンの崩壊は、オーストリアにとって、近隣諸国との新たなパートナーシップを構築する歴史的なきっかけとなりました。オーストリアが1995年に欧州連合に加盟したとき、中欧、東欧の他の諸国が続いて加盟するのは時間の問題でした。

EUに加盟したことで、オーストリアと、中欧・東欧の近隣諸国は、再び安全を実感するようになりました。これらの国々の協力は、ますます深まるでしょう。

マツダ訪問

オーストリアという名前は単なる領土以上の意味があります。オーストリアは、より大きな王国とその支配、そしてそのアイデンティティーの共通の分母なのです。

私は駐米大使だったとき、先祖がオーストリアから移民したというアメリカ市民に大勢お会いしました。その方々の書類をよく読むと、彼らの先祖が、オーストリア王国に属していた、ウクライナ、ルーマニア、ハンガリー、クロアチア、スロベニア、イタリア、チェコ共和国、スロバキア、ポーランドなどの国々の出身だということが時々ありました。しかし、彼らはオーストリア人だと感じ、自分たちの家族はオーストリアの出身だと子にも孫にも言ったのでした。



過去や古いオーストリアの遺産や、今日の中欧・東欧諸国を結びつけるものは、私たちが共通の歴史、共通の文明、共通の文化を持つという共通した認識です。そして今、私たちは共通の未来を明るく見つめています。

また、講演会に先立ち大使は、広島商工会議所の宇田会頭、藤田県知事を表敬訪問、さらに翌日は環境対応エンジンを開発しているマツダ株式会社を見学し、車の部品メーカーの多いオーストリアとの経済交流について議論が交わされました。

寄　稿

「異国での30数年を振り返って」　オーストリア国家資格ガイド　イップ 常子

今、異国で過ごしてきた30数年を振り返ってみると、結婚、3児出産、子育てと、あっという間の出来事でした。無我夢中で走り続けてきたような気がします。

この地で子供たちを育ててきた過程で、もっとも私が心がけてきたことが2つあります。それは円満で和やかな家庭をつくることと、私の母国である日本の文化や言葉を子供たちにもきちんと伝えることでした。それだけのために、ありったけの力を注いできたように思います。

幸い子供たちも無事育ってくれ、それぞれ幼稚園から大学院までの教育を受けさせることも出来、現在では3人とも家を出て独立しています。

主人と私には、長年の夢がありました。それは庭付きのマイホームを造ること。それもようやく実現に漕ぎ着けることができました。土地購入から完成までの苦闘の8年間だったのですが……。専門家の手を出来るだけ借りずに、一家総出で基礎工事から内装まで、「自分たちでできることは、すべて自分たちの手で」をモットーに、夢の家を完成させたのです。石や材木などの建築材料を運ぶといった肉体的にも大変きつい作業でしたが、それだけに愛着もひとしお。今考えると二度と体験できない、家中総出のすばらしい共同作業だったと感慨もひとしおです。

マイホームが完成後、子供の成長とともに、私も長年の専業主婦から脱皮しなければと、オーストリア国家ガイド資格を取得。現在では、シーズン中は観光案内で飛び回り、シーズンオフの冬場は、カルチャーセンターで日本語の教師をしています。

アウガルテン磁器の絵付けをするイップ常子さん

また、仕事の合間を縫っては、趣味であるアウガルテン磁器の絵付け、民族衣装のソーイング、老化防止のためのスポーツなどを楽しんでいます。

私がなぜ、オーストリアという地を選んだのかと、よく質問されます。当初は、異国への言語や文化への単純な憧れ、夢でしかありませんでした。20歳代から、英語、フランス語、ドイツ語に限らず、外国語に対する関心をもっていたのは事実です。

今、1969年のアポロ月着陸のテレビ中継で同時通訳をしておられた西山千氏を食い入るように観ていた私を思い起こします。自在に異国語をあやつることができる人々を、どれだけ羨望のまなざしでみたことでしょう。また、国際線スチュワーデスとして活躍されていた友人にも刺激を受けました。

当時の私は、広島大学理学部勤務。でもその仕事の内容は外国語とは程遠く、しいて外国語に触れる機会といえば、教授の参考文献の題名をタイプに打つ程度でした。会話といえば、まれにみえる外国からのお客様と東南アジアからの留学生のお世話ぐらい。ところが、ようやく私にも夢に見たチャンスがやってきたのです。

それは1972年の夏のことです。オーストリア、スイス、ドイツから25名の親善視察団が広島を訪問され、たった2日間でしたが、彼らのお世話を担当しました。それがオーストリアとの最初の接点であったといえます。

そのときにであった方の縁で、ウィーン大学への留学チャンスを得て、翌年広島大学退職。10月から始まる大学への準備として、1ヶ月間ドイツ語講座を受講しようと日本を出発しました。

赤いトランクにぎっしり本を詰め、ウィーン空港に到着したのは残暑の厳しい9月初めのことでした。到着してすぐ、下宿のおばさんに付き添っていただき、翌日から始まる受講の場

家族と

であるウィーン大学へ出かけ、大学構内を下見したというあわただしさ。下見を終えて、大学の食堂で昼食をとっていたときのことです。たまたま同席の学生とおしゃべりしているとウィーンに着いたばかりで方向音痴の私を案内してくれるとのこと。私は旅の疲れも忘れ、彼との午後の観光を楽しみに食堂を出ました。しかし観光をする前に、彼はまず、ウィーン工科大学の研究室に友人がいるということで、そこに連れて行ってくれました。研究室内には、広島大学で見慣れていたビーカーや試験管などの実験器具がたくさん置かれており、一瞬、かつての職場が脳裏に浮かびました。

ドアーが開き、薄汚い白衣を着たオーストリア人が入ってきたとき、「あっ！」と、懐かしさにも似た、なにか心の奥に深く走るものを感じたのです。人生とは不思議なもので、その白衣の男性こそ、私のウィーン永住を決定づけた人でした。それはウィーンに到着して24時間も経っていなかったできごとだったのですから。

出会ってちょうど1年後に、彼と結婚。1974年のことです。今秋結婚30周年を迎えた記念にと1週間、ギリシャのエーゲ海の島で、新婚時代さながらに海の幸と水泳を満喫。現在主人は光学関係の開発の仕事で多忙な毎日を送っています。

活動報告

クリスマス例会

オーストリア協会で最も人気のある行事、クリスマス例会でははじめに橋本協会会長が「来年は、2回目のオーストリア訪問旅行を実施し、『ハプスブルグ家の歴史を探る』をテーマにオーストリア近隣数カ国を訪ねてみたい。また、野外でオーストリアのワインを飲みながら肉などを焼いて食べるという野外パーティーを盛り込んだ半日のバスツアーを行い会員相互の交流を深めたい。」と抱負を述べました。

続いて、エリザベト音楽大学の卒業生で結成したグループ、プリマベーラ・カルテットが、「情熱大陸」や「ジュピター」など今年流行った名曲や「清しこの夜」を美しい弦楽器で奏で、クリスマスの雰囲気を盛り上げました。

そして、乾杯では、協会理事で広島大学名誉教授の福嶋正純さんがウィーンの市役所前に飾られるクリスマスツリーと、お菓子や砂糖を入れて暖めて飲む赤ぶどう酒の匂いでたちこめる市場の思い出を披露し、「クリスマスツリーはいつまでも若く『命の樹』として飾られており新年を迎える喜びを表しています。当協会もこのクリスマスツリーにあやかっていつまでも若さと生命を保つようにまた皆さんが健康であるように」と酒杯をあげました。

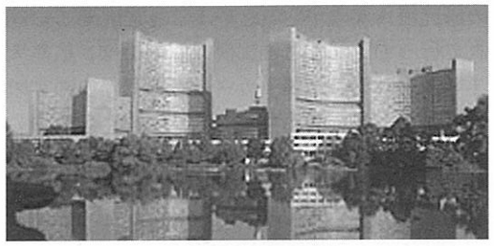
会では、今年の夏オーストリアのバーデンで行われたウェイトリフティング・マスターズで銅メダルを獲得した、真野正さんが紹介されメダルが披露されました。そして、この会最大のイベント大ビンゴ大会が行われました。今年は、法人会員様のご協力で3人に1人があたる豪華なものとなり、目玉商品の高級ワゴンが当たった会員の方は大変喜んでいらっしゃいました。

今年のクリスマス例会には会員やそのご家族、友人など170名が出席され、協会のアットホームな雰囲気のせいか、会の終了後には入会された方も多々いらっしゃいました。

帰国報告

ウィーン滞在記

中国電力 大段勝己



ウィーンと言えば芸術の都として有名ですが、ニューヨークやジュネーブと並ぶ国連都市があることをご存知でしょうか。また、ウィーンに本部を置く国連機関のうちでは国際原子力機関（IAEA）が有名ですが、国連工業開発機関（UNIDO）という組織もあることをご存知でしょうか。私はそのUNIDOに出向する機会に恵まれ、生まれて初めての外国生活をウィーンで2年間体験することができました。赴任前、ウィーンには前任者も知人もいない状況だったので、広島オーストリア協会に駆け込み、いろいろ教えて頂いたのがつい昨日のようです。

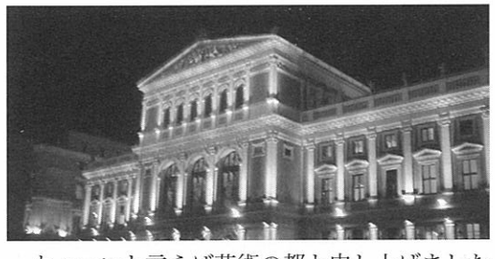
（写真：ウィーンの国連都市）

ウィーンに赴任したのは2002年11月下旬でした。緯度が北海道より高いので寒さは覚悟していましたが、冬は日が短い上にほとんど曇りで薄暗く、めったにお日様が拝めないのには閉口しました。生活面では、商店が平日昼間しか開いていないため、日本のコンビニ文化に慣れた身には不便でかなりのストレスでした。現地の人に「ウィーンはどう？」とよく聞かれましたが、赴任当初はウィーンの良い点が見つからず楽しみ方も分からず、正直にネガティブな返事をしていたのを思い出します。ただ、最初に冬を経験したおかげで春を迎える喜びを体感でき、ヨーロッパ人が夏にお日様を浴びたがる気持ちが少し理解できた気がします。ちなみに、冬が寒いぶん夏はさぞ涼しくて過ごしやすいだろうと期待していたのですが、1年目の夏、ヨーロッパは記録的な猛暑に見舞われ、なんと住みにくいところだと感じたのが正直なところでした。

（写真：自宅前の風景）

「ウィーンはいいところだ」と最初に思えたのは、落ち着いた街の雰囲気でした。もちろん、歴史の長さが日本とは異なるわけですが、建築物の落ち着きだけでなく、派手な看板やネオンがないこと、商店街に無意味なBGMがないことなど、実に落ち着いて街を散策することができることに感心しました。クリスマスシーズンにはイルミネーションが街のあちこちに見られますが、電球は点滅しない白熱灯で、幻想的でありながら落ち着きと暖かさが感じられました。

（写真：クリスマスの市庁舎）



ウィーンと言えば芸術の都と申し上げましたが、哀しいかな私には芸術を解するセンスが備わっておらず、備わっている方々には垂涎の的であろうウィーンも私にはネコに小判でして…とは言えウィーンに来て何も鑑賞しなかったとなればやはり罰が当たると思い、国立オペラ座でオペラを観、楽友協会でオーケストラを聴き、美術館や博物館にも足を運びました。高尚な言葉では表現できませんが、私なりに感動を覚えましたし、身重の妻も連れて行ったので、我が子にはいい胎教となって多少なりともセンスが授けられないかと期待するところです。

（写真：楽友協会）

芸術の方は飲み込みが悪い私ですが、日本ではほとんど飲むことのなかったワインは、ウィーンでいろいろな機会・場所で飲むうちに、ビールにとって変わるまでになりました。今、帰国して一番思い出すのがウィーンのブドウ畑で飲んだホイリゲワインです。その他、季節ものである発酵途中のワイン（シュトゥルム）や、クリスマスシーズンに街角の出店で飲んだグリューワインが懐かしいです。ワインの他にも、もともとこだわりのなかったコーヒーですが、ウィーンで飲みなれたメランジェコーヒーを再現するため、帰国後に専用の機械を買ってしまいました。

（写真：ベルベデーレ宮殿のクリスマス市、右から2番目が筆者の妻）

せっかく外国にまとまった期間滞在できるのだから、めったにできない経験をしようと、現地で車を調達しました。12年落ちで17万キロも走っていたポンコツでしたが、スイス以外の隣接国（チェコ・スロバキア・ハンガリー・スロベニア・イタリア・ドイツ）とオランダ・ベルギーまで連れて行ってくれました。2年間、様々なトラブルやハプニングがありましたが、幸いにも無事故で3万キロを走り、いい思い出を作ってくれたのでウィーンに残して帰国するのが辛かったです。

（写真：ウィーンでの愛車）

最後に仕事の話をしておきましょう。私は、中国電力では火力部門で仕事をしており、その関連でUNIDOではエネルギー・環境部門に配属されました。UNIDOは、途上国開発プロジェクトを立案し、先進国から資金を調達して実施するのが仕事です。多分に政治的な業務であり、私ごときが一朝一夕に成果を出せるようなところではありませんが、国連の一機関の仕事を内側から見ることができ、途上国での仕事の難しさを感じることができました。職場は日本のような大部屋ではなく、スタッフ一人ひとりが個室で、ワークスタイルは日本とかなり異なったものでした。業務の性格上、日本の会社と比較することは難しいですが、チームワークより一匹狼的な仕事の仕方は組織全体としての効率には多少の疑問を感じました。しかし、雇用が契約形態であり、転職を重ねることをキャリア形成と考える文化では当然のスタイルなのかもしれません。今、2年ぶりの元の職場を新鮮に感じつつ、ウィーンを思い出しながら仕事をしています。

（写真：同僚との写真、右端が筆者）

今秋のクラシックコンサート決定!!

ウィーン・フィルハーモニア・ピアノ五重奏団

2005.10/25(火) 18:45開演 (18:15開場) **広島国際会議場 フェニックスホール**

広島オーストリア協会主催、恒例クラシックコンサート

2001年「ライナー・キュッヒル ヴァイオリンコンサート」
2002年「天使の歌声〜ウィーン少年合唱団」
2003年「ルドルフ・ブッフビンダー ピアノ・リサイタル」
2004年「ウィーン・モーツァルト・オーケストラ」

……そして今年の秋は **ウィーンの室内楽の伝統** をお楽しみください。

広島オーストリア協会が自信を持ってお届けします。

2003年日本公演プログラム

ブラームス:ピアノ四重奏団
第1番ト短調　作品25
シューベルト:ピアノ五重奏団
イ長調「ます」　作品114　D.667

シューベルトの名曲「ます」。有名な同名歌曲のメロディを第四楽章で変奏曲として使用しているピアノ五重奏曲も室内楽の名曲として親しまれています。このピアノ五重奏曲の編成は、ピアノ・ヴァイオリン・チェロ・コントラバスからなり、今公演は弦全員がウィーン・フィルのメンバーという、ウィーンを代表する作曲家シューベルトを演奏するのにまたとない組み合わせといえるでしょう。ウィーン・フィルのメンバーによる数ある室内楽団体の頂点の一つであるウィーン弦楽四重奏団を主宰するコンサート・マスターのウェルナー・ヒンクは、ウィーン・フィルの顔としての活躍だけでなく、室内楽、特にシューベルトの演奏では評価が高く、歌心と音楽への慈しみに溢れた、まさにウィーン的な演奏を引き継ぐウィーン・フィルの中でも随一の存在と言われています。ヒンクが集めたウィーン・フィルの代表的な奏者達で聴くシューベルトの名曲「ます」はこれ以上ない究極の室内楽といえるでしょう。ピアノのジャスミンカ・スタンチュールは、1989年にウィーンの国際ベートーヴェンピアノコンクールで優勝し、ソリストとしても活躍している注目のピアニストです。今秋の来広にご期待ください。

投稿をお待ちしています

①オーストリアの旅の思い出・生活・習慣・芸術のこと・オーストリアの友人の話・その他何でも結構です。会員の皆さまからの寄稿を募集します。住所・氏名・職業・電話番号を明記して協会事務局へお送り下さい。原稿用紙400字詰3枚以内、関連する写真(あなたが一緒に写っていればなお結構)を1〜2枚付けて下さい。ただし事務局で手直しさせていただくことがあります。**掲載分にはささやかなプレゼントを送らせていただきます。**(ご投稿の写真は後日お返しいたします)

②会員が主催するコンサートなど催し物の情報、会員の動向・消息・会報への提言・協会への希望も、できれば①と同様、氏名などご記入のうえお送り下さい。なお会報への提言(400字程度)・協会への希望は住所のみ、無記名でも結構です。

①、②どちらも原稿の返却はいたしませんのでご了承下さい。

編集後記

永らくオーストリア協会事務局の紅一点(!?)として頑張ってくれた豊島純子が、人事異動のため担当を代わりました。新しく4月入社の弘中恵梨が担当となります。会員の皆様、今後ともよろしくお願い致します。

豊島:3年間、事務局でお世話になり、ありがとうございました。一度も訪れたことのないオーストリアの知識ばかりが深まり、あとは実際に訪墺するのみです。今後とも若返った事務局共々オーストリア協会をよろしくお願いいたします!

弘中:初めまして。入社したばかりで少し緊張していますが、先輩の後をしっかり継いで頑張りますので皆様よろしくお願い致します。

＊個人情報保護法が施行されました。広島オーストリア協会でお預かりしている、会員の皆様の個人情報につきましては、広島オーストリア協会の運営に関することに利用するもので、それ以外の目的には利用致しません。